
俺が教師になったワケ

うぐいす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺が教師になったワケ

【Nコード】

N2848D

【作者名】

うぐいす

【あらすじ】

高校の時に不良やってた俺を変えてくれたのはあいつだった。本当に感謝してる。今でも思い出さない日はない。俺は俺として、お前と同じ夢を追いかける。

俺は今、教室の扉の前に立っている。

それも教師として

俺は高校の時、不良だった。

同級生が昨日のテレビだの誰と誰が付き合ってるだのの会話に吐き気がして、教室で同じ空気を吸ってるだけで肺が腐ってく気がした。

学校から出たことがない教師に世間を厳しさを語られ、侮辱された。

全てがどうでもよかった。

総てが灰色だった。

ぐだぐだ流れてく日常に絶望する。

汚くて、薄汚れて、無駄に頑丈で、なんの意味もない世界。

君に会ったのは、確か俺がコンビニで酒パクってるときだった。

今でも覚えてる。

「なにしてんのこのバカ!!」

初対面で、身長も体格もある俺に、君は小さな体を震わせながら怒声を浴びせた。

それが出会いだった。

まさか同じ高校で、しかも隣の席だったときは驚いたよ。

「世の中はくだらないと思うかもしれないけど、そこであえて生きるのが人生だよ。」

「どんな人にも、きっとどこかに好きになれる場所がある。君にそれを探す気がないだけ。」

君の言葉が俺に光をくれた。

暗闇の中震えてた俺を、優しく包んでくれたね。

俺は学校に戻った。

軽蔑したり、悪意を向けてくる奴もいたけど悪くない場所だって思えた。

いい奴も中にはいる。

友達と呼べる奴も出来た。

俺は、君に思いを伝えた。

出会えて良かったこと、感謝していること、そして君を愛しいと思っていること。

本当に緊張した。

あんなに緊張したのは人生で初めてだったよ。

だから、

「ありがとう。私も好き。」

その言葉は、本当に嬉しくて、今でもハッキリ思い出せる。

「私は、みんなを、生徒みんなを救えるような、そんな教師になりたい。」

そう言って、教師への道に迷いなんてなかった君。

俺は笑いながら似合わねえって言ったけど、君なら絶対なれるって信じてた。

そして、そんな教師になった君と、何したいかまだわからないけど俺が、いつまでも二人で居られるって信じてた。

信じてたのに…。

病院のベッドの上でやつれていく君。

俺は何も出来なくて、でも側にいたくて、だけど学校に行けって怒った君。

だけど、絶対に側から離れない俺に

「仕方ないなあ。」

って苦笑した君。

俺にはそれしか出来なくて
ただそれが悔しくて…

悲しくて…

辛くて…

「忘れないでね。君は決して一人じゃない。」

と、手を握ってくれた君のぬくもり

「私は幸せ者だな。だって大好きな人の側で死ねるんだもん。」

と言って笑った笑顔

「今まで本当にありがとう。本当に本当に大好きだよ。」

そう言ってキスした君の唇のぬくもり

俺は決して忘れない。

一生、いや死んでも忘れない。

「君は生きて。私の変わりじゃなく君として生きて。私は大好きな君に生きて欲しい。辛いかもしれないけど、私は愛してる君に生きて行って欲しい。」

俺は生きるよ。

君の変わりじゃない。

俺は俺として、俺のやりたい事をする。

決意を胸に

教室のドアを開けた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2848d/>

俺が教師になったワケ

2010年10月17日08時03分発行